2025年度
第5回業務委員会
資料№7-2

全Ｌ協保安・業務Ｇ７第１７９号
令和７年１２月２４日

一般社団法人 日本コミュニティーガス協会　御中

一般社団法人 全国ＬＰガス協会

『２０２６営業提案セミナー』へのご後援について
（お願い）

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は当協会の業務につきまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、令和７年度は、エネファームの普及促進を目的としてエネファームセミナーを全国５会場で開催しましたが、令和８年度は、新築住宅への省エネ基準適合義務化された状況下において、ガスの新築需要を確保し既築需要を維持していくために、エネファーム、ハイブリッド給湯器等の高効率ガス機器、リフォーム等の提案が大変重要な取組みであることから、全国の主要エリアにおいて、ＬＰガスの提案活動と人材育成を支援していくための『２０２６営業提案セミナー』を開催することとなりました。

つきましては、実施に際し、貴団体のご後援を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

記

『２０２６営業提案セミナー』

１. 開催概要および目的

・対面開催（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、松山、福岡、那覇）

・全国主要エリアでＬＰガスの提案活動と人材育成を支援していくことを目的とする。

２. 添付書類

・２０２６需要開発セミナー概要資料

・後援承諾書（回答書）

以　上

発信手段：Ｅメール

担当：保安・業務グループ　宍戸、岩田

２０２６需要開発セミナー概要

２０２５年１２月１５日

一般社団法人 全国LPガス協会

《取り組み事項　２０２６年度》

2025年度は、4月からの省エネ基準適合義務化と、ZEH基準及び方向性が示された2027年度からの新ZEH基準への対応を踏まえ、エネファームの普及促進を目的として、「エネファームセミナー」を全国5会場、合計10回のセミナーを開催しました。

2026年度は、東京で「LPガス事業の経営者に対するセミナー」と、全国の主要エリアで、エネファーム、ハイブリッド給湯器等の高効率ガス機器、リフォーム等の営業力強化と人材育成を目的としてた「営業提案セミナー」を開催させていただきます。

新築着工戸数が減少傾向にあり、新築需要を中心にエコキュートによる電化傾向が強まる中、新築住宅への省エネ基準適合が義務化された状況下において、ガスの新築需要を確保し既築需要を維持していくために、エネファーム、ハイブリッド給湯器等の高効率ガス機器、リフォーム等の提案活動が大変重要な取組みとなっております。

LPガス事業の経営者の皆さまと危機感と将来像を共有するとともに、全国の主要エリアにおいて、LPガスの提案活動と人材育成を支援していきたいと考えます。

《２０２６全国経営者セミナー》概要

- 名　称：一般社団法人全国LPガス協会 「2026全国経営者セミナー」
- 日　時：令和8年4月17日(金)　13時30分～17時
- 場　所：航空会館(東京都港区新橋1丁目18−1)
- 受講者：LPガス事業者　経営幹部
- 会　費：有料開催　5,500円(税込)
- 内　容：「LPガス産業の将来像について」
  ～エネファーム、ハイブリッド給湯器等の高効率ガス機器による需要開発の重要性について～
- 講　師：資源エネルギー庁省エネルギー課　課長補佐　宮岡俊輔様
  日本LPガス協会(官民検)様　(予定)
  エネルギー事業コンサルタント　中小企業診断士　角田憲司様
  DWK株式会社　代表取締役　山﨑太一様
- 後援・協賛
  ・一般財団法人コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
  ・日本LPガス団体協議会
  ・日本LPガス協会
  ・一般社団法人日本ガス石油機器工業会

《２０２６営業提案セミナー》概要

- 名　称：一般社団法人全国LPガス協会 「2026営業提案セミナー」
- 日　時：令和8年6月～10月
- 開催地：全国主要エリア
  札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・松山・福岡・那覇
- 受講者：LPガス事業者、コミュニティーガス事業者、地方都市ガス事業者
- 会　費：有料開催　5,500円(税込)
- 内　容：エネファーム、ハイブリッド給湯器等の高効率ガス機器、及び、リフォーム等の営業提案研修
- 講　師：DWK株式会社　代表取締役　山﨑　太一　様
- 後援・協賛
  ・一般財団法人コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
  ・日本LPガス団体協議会
  ・日本LPガス協会
  ・一般社団法人日本ガス協会
  ・一般社団法人日本コミュニティーガス協会
  ・一般社団法人日本ガス石油機器工業会

《２０２６セミナースケジュール》

- 全国経営者セミナー:4月17日(金)13時～17時　会場:東京　航空会館

- 営業提案セミナー　:各会場共に13時～17時を予定

  ・東京会場:6月22日(月)　会場:航空会館
  ・那覇会場:6月26日(金)　会場:(一社)沖縄県高圧ガス保安協会
  ・札幌会場:7月6日(月)　会場:北海道ガス株式会社グループ本社
  ・仙台会場:7月10日(金)　会場:カメイ株式会社本社
  ・大阪会場:7月13日(月)　会場:株式会社エネアーク関西本社
  ・福岡会場:8月21日(金)　会場:(一社)福岡県LPガス協会
  ・名古屋会場:9月7日(月)　会場:TKPガーデンシティPREMIUM名古屋駅前
  ・広島会場:9月14日(月)　会場:(一社)広島県LPガス協会
  ・松山会場:11月13日(金)　会場:リジェール松山

NEWS RELEASE

一般財団法人 ベターリビング

より良き住まい　より良き住環境　より良き建築の実現

2025年度
第5回業務委員会
資料№7-3

社会貢献優良住宅部品（ＢＬ-bs 部品）「浴室換気改修用パネル」を新規に認定しました

２０２６年１月７日
一般財団法人ベターリビング

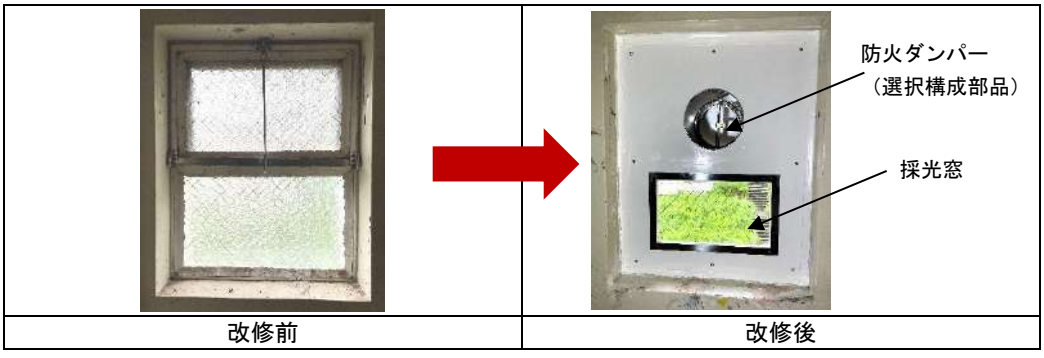
一般財団法人ベターリビングは、2025 年 12 月 19 日付で、日本総合住生活株式会社の「浴室換気改修用パネル」を、優良な住宅ストックの形成・活用に寄与する特長を有する社会貢献優良住宅部品（ＢＬ-bs 部品※1）として新規に認定しました。

浴室換気改修用パネルは、住宅の浴室において、浴室内の換気を目的とした既存窓の改修に使用するパネルです。内倒し窓などの自然換気小窓を撤去し、換気扇取付用孔を有する本部品を取り付けることで、既存壁に開孔することなく換気設備を設置することが可能です。本部品と換気設備の設置により浴室内の換気が改善でき、快適性向上と清掃などの家事負担軽減に繋がります。さらに、室内側からの取り付けが可能な部品のため、施工の負担軽減にも寄与します。

※1：優良住宅部品認定制度において、社会的要請への対応を先導し「より良い社会の実現に寄与する特長」を備えた住宅部品を社会貢献優良住宅部品（ＢＬ-bs：Better Living for better society）として認定しています。

１．社会貢献優良住宅部品（ＢＬ-bs 部品）「浴室換気改修用パネル」認定基準制定の背景

昭和 40 年代に建設された共同住宅の浴室は、内倒し小窓による自然換気が主流でしたが、当該小窓は効率的に換気ができる十分な大きさがあるとは言えず、入浴後の換気に時間を要することが問題となっていました。窓開けによる自然換気方式から、浴室内の換気性能を向上させることができる機械式換気へ切り替えることで、短時間で効率的な換気が可能となります。そこで、既存の窓開口部を利用して壁を開孔することなく機械式換気への切り替えができるパネルを、新たな住宅部品として普及させるため、認定基準を新規制定（2024 年 9 月 2 日公表・施行）しました。



内観イメージ

＜問い合わせ＞住所：〒102-0071　千代田区富士見 2-7-2
担当：住宅部品評価部
電話：03-5211-0665

２．認定した製品の概要

認定企業名	日本総合住生活株式会社
認定番号	BLF192530
認定機種名（名称）	浴室換気改修用パネル
型式名	KJ-100G、KJ-150G、KJ-100P、KJ-150P、KJ-100U、KJ-150U 全６型式
面材	・SUS304(t=0.8)+網入りガラス(t=6.8)+化粧パネル ・SUS304(t=0.8)+化粧パネル
採光窓	あり、なし
換気扇取付用孔径	100mm、150mm
気密性、水密性、耐風圧性	A-4、W-5、S-5

３．認定した製品の特長

① 既存開口部に本部品を取り付けることで、自然換気方式から機械換気方式への切り替えが可能です。

② 換気扇本体は、ユーザーや住宅供給者が求める性能等に応じて自由に選定できるよう、換気扇取付用の孔径（パイプファン径）を明確にしています。（換気扇本体は認定対象外）

③ 設置する箇所に応じて、防火ダンパーを付加できます。

④ 開口部（サッシ）に求められる気密性（A-3 以上）、水密性（W-4 以上）、耐風圧性（S-4 以上）と同等の性能を有しています。

⑤ 室内側から施工が可能で、施工時間が短く、住みながらの改修施工が可能です。ユニットバスへの改修にも対応しています。



BL マーク証紙：BL-bs 部品
（浴室内換気改善）

＜問い合わせ＞住所:〒102-0071　千代田区富士見 2-7-2
担当:住宅部品評価部
電話:03-5211-0665

事例で知る
エネファーム販売の知恵
Smart Action
コージェネ財団 かわら版［スマートアクション］
2026年1月 vol.52

―10年目の接点が生む“お客さまづくり”の可能性―

エネファームリプレイス販売拡大へ











INTERVIEW　東京ガスグループが展開する「リプレイス研修」の狙い

東京ガスリビングアドバンス株式会社
流通営業推進部 流通推進グループ
橋元 昭佳 さま
太田 吏 さま

研修原局 × 研修実施者

東京ガス株式会社
人材育成センター 研修第一チーム
チームリーダー 渡辺 康範 さま
班長・コース管理者 宗像 大 さま

東京ガスグループ様は、エネファーム「安心フルサポート」期間の満了を迎えるお客さま向けの営業研修、「エネファームリプレイス営業研修」を販売店（主に東京ガスライフバル・エネスタ様）向けに2025年4月から新たに実施されています。なぜ、エネファームのリプレイス提案に注力されているのか？ この研修の背景と狙いは何か？ リプレイス販売拡大に向けたお取り組みを取材しました。

東京ガス様のお取り組み3つのポイント

1 エネファームリプレイス市場の課題認識と販売拡大へのチャレンジ
2 実績に裏付けられた成功パターン「ベストプラクティス」の水平展開
3 リプレイス獲得はゴールの1つ。本当の狙いは提案を通した「お客さまづくり」

ポイント1　エネファームリプレイス市場の課題認識と販売拡大へのチャレンジ

Q. リプレイス営業研修を立ち上げた背景をお教えいただけますでしょうか？

東京ガスリビングアドバンス 橋元さま■エネファームは販売開始から16年目を迎えています。「安心フルサポート」期間が満了となる10年を迎えるタイミングを、お客さまとの接点を強化する好機と捉えています。私たちがリプレイスの対象としているのは、販売店が直接お客さまへ販売したエネファーム（自店分）と、ハウスメーカー様が新築時に販売したエネファーム（新築分）、これらを合わせた6万台超の既設エネファームです。自店分のリプレイス提案を進めるのはもちろん、新築分のリプレイス提案も進めています。しかし、新築分のお客さまとは関係性が希薄なケースが多く、まずは信頼関係を構築することが課題です。「安心フルサポート」満了のご説明訪問のご都合をお伺いするアンケートDMを発送していますが、新築分のお客さまからの回答率は低い状況です。また、訪問し面会できた場

合でも、エネファームへの関心が低い方も多くいらっしゃいます。このような背景から、自店分・新築分を問わず、お客さまとの関係性をしっかりと築き、エネファームのメリットを改めてお伝えできる営業パーソンの育成を目的に本研修を新設しました。

Q. 今後はリプレイス市場での販売拡大に注力されていくのでしょうか？

東京ガスリビングアドバンス 橋元さま■新築市場は物価高の影響などで着工件数自体が減少しており、エネファームの販売が難しい状況にあります。一方、リプレイス市場は今後、ボリュームが増えていくことは明白です。2009年や2010年に発売されたエネファームはすでに15年目を迎えても継続して使用されているケースがまだまだあります。これからも数万台規模が10年経過を迎え市場が拡大していく中、エネファーム販売拡大にはリプレイス提案は必須だと考えています。今後も、東京ガスグループとしてリプレイス市場に注力。リプレイス率の向上を目指し、エネファームのさらなる販売拡大に取り組んでいきます。



東京ガスリビングアドバンス 橋元さま

ポイント2　実績に裏付けられた成功パターン「ベストプラクティス」の水平展開

Q. では、研修についてお聞きいたします。この研修はどのように設計・構築されたのでしょうか？

東京ガス 宗像さま■本研修は、実際の販売現場で得られた成功事例と失敗事例をもとに構築しています。2023年下期にリプレイス販売拡大を目的とした「エネファームプロジェクト」を立ち上げました。その活動の中で、プロジェクトメンバーが実際のお客さま宅に「飛び込み訪問」を行いました。販売店からエネファームをお使いのお客さまリストを提供いただき、1日20～30件、約1か月半で400～500件を巡回しました。私と東京ガスリビングアドバンスの橋元さんもそのメンバーです。この巡回をきっかけに約10台の成約につながりました。と同時に訪問しても不在の方が多い、エネファームの関心が低く話をさせていただけないなど、現場の皆様の苦労も体感しました。そして何より、実際のお客さまの意識について身をもって確認することができました。このような現場経験を通して得た知見を研修に取り入れています。

リプレイスの現場で見られた傾向（一例）

- 10年経ち、家族構成が変わり電気とお湯の使用量に変化があった。
- エネファームリモコンで発電量・お湯使用量・CO_2削減量などを見る機会が減った。
- ハウスメーカー（新築）で購入したので、エネファームをあまり理解していない。

東京ガス 渡辺さま■研修では、現場経験を活かしたアドバイスを重視しています。インストラクターが「これは自分たちの経験に基づく話です」と伝えることで説得力が高まり、経験者が語るエピソードは受講者に強い印象を与え、理解を深めます。現場に近い内容を共有することが重要で、研修の信頼性と効果が向上すると考えています。実体験を取り入れるという点では、私たちの経験だけではなく、実際に活動されている販売店へのヒアリングと、営業パーソンの現場同行も行いました。複数の販売店および営業パーソンに協力いただき、違いを比較・分析し、「こういう工夫があるのか」という新たな発見と「こういう点が必要ではないか」という課題が明確になりました。こうした現場経験をリプレイス提案の研修に反映しました。営業スキルやロールプレイングの内容に組み込み、受講者が実践的な力を身につけられるようにしています。



東京ガス 渡辺さま

リプレイス提案の「ベストプラクティス」（一例）

❶雑談によるアイスブレイクから関係を構築
➡お伝えしたいことを話す前に打ち解けた雰囲気をつくる。お客さまの不便・不満・不安があるようであれば受け止める。

❷エネルック機能（エネファームリモコン）による使用状況をお客さまと確認
➡これまで10年間のエネファームの恩恵をお客さまに再認識いただく。

❸安心フルサポート満了の説明と、今後のライフスタイルにあった対応策・商品を提案
➡ヒアリングを通して、今後10年間の最適解を一緒に見つけるパートナーとして認識いただく。

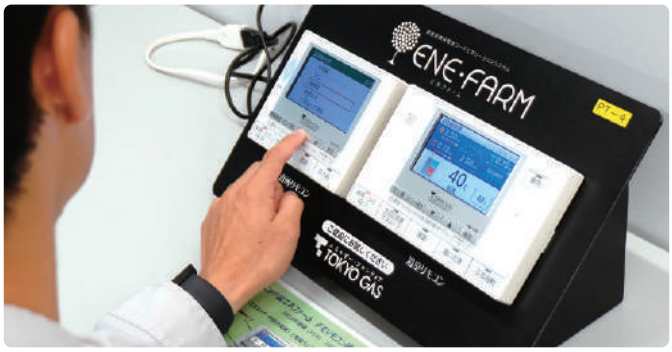
東京ガス 宗像さま■このようにして研修を組み上げ、昨年度、販売店5社に研修を実施し内容を検証しました。講義と実践を1日間に凝縮しましたが、インプットとアウトプットを両立することが難しいことが分かり、現在の2日間コースに変更しました。主な改善点としては、講義中心の商品知識パートを、テキストや動画を見て学ぶだけでなく、実習場で実機を見たり、実際にリモコンを操作したりする時間を設けました。また、ロールプレイングでは営業担当者役・お客さま役の二役から、オブザーバーを追加することで、客観的に会話を聞きコメントをすることで新たな気付きを促すようにしました。また、受講者だけでなく、販売店の上層部の方々もご参加くださり、学んだことをその場で実践できる点を高く評価いただき、今年度、本開催へと至りました。



東京ガス 宗像さま

Q. 研修のカリキュラムと、そのポイントをお教えいただけますでしょうか？

東京ガス 宗像さま■研修カリキュラムは2日間構成で、1日目は商品知識を学びます。座学だけでなく、エネファームの旧機種と最新機種の実機、加えてお客さま宅に設置されている同型のデモリモコンを実際に操作・体験できるようにしています。また、お客さま宅の訪問時に必要なマナーも学びます。





2日目は営業スキルとコミュニケーションスキルに重点を置きます。話法や関係構築の方法を学び、ロールプレイングで実践します。ロールプレイングでは3人1組で営業担当者役、お客さま役、オブザーバーを各1回担当し、振り返りとアドバイスを行うことで、現場で明日からでも実践できるように学んだことを身につけます。

〈研修カリキュラム〉

1日目
- オリエンテーション・マインド醸成
- 商品知識・エネファーム実機（新旧機種）の確認
- エネルック機能（デモリモコン）の活用
- 訪問などにおけるマナー

2日目
- 営業プロセス
- 営業スキル・コミュニケーションスキル
- ロールプレイング

特に注力しているポイントは2つです。1つ目は、お客さまのライフスタイルの変化をしっかりヒアリングし、その結果に基づいてエネファームの提案を行うことです。家族構成や働き方、ペットの有無など、生活環境は10年前と比べて大きく変わっているため、現状に合った提案が重要です。そのためにも、10年前の機種と最新機種を並べて比較できる環境を整え、機能の進化やサイズの違いを実機に触れながら確認します。特に、エネファームの発電などの実績をお客さまに確認していただくためにもエネルック機能の活用は重要です。リモコンの操作方法も新旧で異なりますので、訪問時に旧機種のリモコン操作方法がわからないということがないように操作方法を習得します。2つ目は、インプットだけでなくアウトプットを重視することです。講義を聞くだけでは現場で活用できないため、2日目の午後はすべてロールプレイングの時間にあて、実践的なスキルを身につける構成にしています。ロールプレイングでもデモリモコンを操作し、エネルック機能を活用しながら、10年間の発電量などを確認し「エネファームがどれだけ貢献しているか」をお客さまにお伝えする練習をします。研修で学んだ内容をお客さまのお宅でもすぐに実践できるよう工夫しています。



Q. 受講対象など研修の概要をお教えいただけますでしょうか？

東京ガス 宗像さま■本研修は、4月から12月にかけて年間20回開催、定員各回9名とし、最大180名の受講生を受け入れる体制を整えています。10月末時点で121名が受講済みです。受講対象者は営業経験の浅い方や、これから営業に携わる方などを対象としていましたが、販売店からの要望により、中堅クラスやベテランの方も申込みいただき、幅広い層に受講いただいています。実際は約6割が4年以上の経験者で、20年目のベテランの方も含まれています。

少人数制にすることで、実現場にあった実践的な学習が可能となっています。受講者アンケートの結果では、「理解できた」が80%、「やや理解できた」が20%で、理解できなかった方はゼロでした。満足度も高く、「満足」が86.4%、「やや満足」が13.6%で、低評価もゼロでした。

受講者の声（一例）

- 実機確認やリモコン操作（エネルック機能）、ロールプレイングなど実践的な内容で理解が深まった
- 新規販売とリプレイス販売の違いを理解できた
- アウトプットを通じて知識が身につき、明日から実践できる内容だった

また、受講者の上司からは「研修後、受講者の発言や態度が積極的になった」という評価もあり、すぐ契約には至らなくても情報収集力などが向上しているとの声があります。今後は研修効果が数字に表れることを期待しています。


講師として研修を実施されている宗像さま

ポイント3　リプレイス獲得はゴールの1つ。本当の狙いは提案を通した「お客さまづくり」

Q. 受講者の皆様に、本研修の成果をどのように活かしていただきたいですか？

東京ガス 宗像さま■研修の冒頭で、現状や課題を共有し、接点業務を通じてお客さまの生活をより快適にする提案を行うことが使命であるとお伝えしています。東京ガスグループの社員として、お客さまに寄り添った提案を行い、その結果としてリプレイスの成果につなげていただくことを目指しています。しかし、リプレイスはテーマの1つで、最終的な目的は「お客さまづくり」です。信頼関係を築くことで、リプレイスだけでなく、他の提案にもつながる営業力として活かしていただければと思います。

東京ガス 渡辺さま■現在、接点業務は減少傾向にあるため、エネファームのリプレイス提案は非常に重要な接点機会です。10年前に導入いただいたお客さまの家族構成や生活環境の変化をヒアリングし、最も適した提案を行い、またこの先10年のお付き合いが始まる。このような機会を有効に活用し、幅広い営業活動に役立てていただければと思います。

東京ガスリビングアドバンス 橋元さま■お客さまの家族構成などを確認し、どれだけ電気やお湯を使うか。エネファームはライフスタイルをヒアリングするきっかけをつくれる商品です。こうした会話を通じて築年数や今後のリフォームの可能性も把握できるためリフォーム提案にもつながります。リフォームは水まわりが中心ですが、販売店によっては外壁塗装や屋根工事まで対応するケースもあります。エネファームという高額商品を購入いただいたお客さまとは強い信頼関係が構築されているため、こうした工事も安心して依頼される傾向があります。お客さまは情報を調べることができても、最終的には「どこに頼むか」が重要であり、信頼できる関係を築くことが選ばれる理由となります。リプレイス提案をきっかけにお客さまとの関係を深め、総合的な提案につなげてほしいと思います。

Q. 本研修の次なる展開は検討されていますでしょうか？

東京ガスリビングアドバンス 太田さま■来年度に向け、研修をさらに良いものにするため、新しい提案内容を検討しています。一例となりますが、停電対応をはじめとしたレジリエンスニーズの高まりを受けて、エネファーム単体だけでなく「蓄電池との組み合わせ」を検討しています。エネファームで発電した電気を蓄電池に充電する仕組みを活用するなど、エネファームの導入価値をさらに高めることで、より幅広いお客さまニーズに対応できるソリューション提案にしていきたいと考えています。どのような形になるのか、来年度の研修の進化を、私自身も楽しみにしています。


東京ガスリビングアドバンス 太田さま

コージェネ財団
一般財団法人 コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
燃料電池室

〒105-0001 東京都港区虎ノ門１-16-4 アーバン虎ノ門ビル４階　TEL.03-3500-1612　FAX.03-3500-1613

https://www.ace.or.jp/fc/

発行日／2026年1月13日　発行者／一般財団法人 コージェネレーション・エネルギー高度利用センター　燃料電池室　制作／株式会社プラティコ

（資料提出日：1月13日）
2026年1月15日
ENEOSグローブ株式会社

事業用原料の需給・価格動向について（海外マーケット動向）

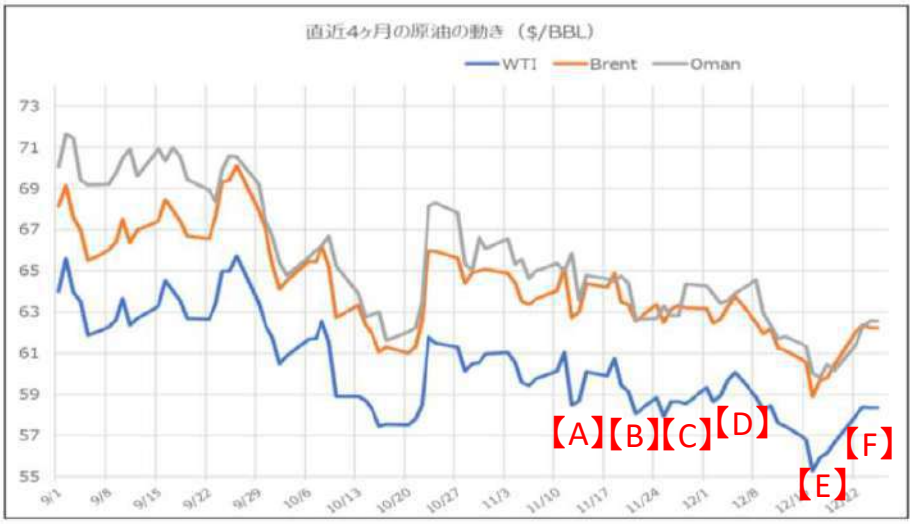
**2025年度
第5回業務委員会
資料№8-1**

1.最近の原油動向

【11月】＜再掲＞
・11月のWTI原油は$58~61/bbl台の推移。
・上旬： 中東などの主要な産油国が原油生産を拡大する中で、カナダが排出量の上限規制を見直し原油生産を増やす可能性があるとの見方が重荷となり、原油需給が緩和するとの思惑から売りが出た。【A】
・中旬： OPECが公表した11月の石油市場月報で、2025年と26年の原油需要見通しを前月からそれぞれ下方修正した。世界の石油需給が緩むとの見方につながったことが売りを誘い一時$58.14/bblを付けた。【B】
・下旬： ロシアとウクライナを巡る地政学リスクが和らいでいるとの見方から原油先物に売りが出た。【C】

【12月】
・12 月の WTI 原油は$55~60/bbl 台の推移。
・上旬：悪天候とウクライナによるドローン攻撃の影響で、ロシア産原油の供給が増えづらいとの見方から、原油先物に買いが入った。【D】
・中旬：ロシアとウクライナの和平交渉が進展するとの観測から、売りが膨らんだ。一時 54.98 ドルと期近物としては、2021 年 2 月以来4 年 10 カ月ぶりの安値を付けた。【E】
・下旬：米国がベネズエラを出港した石油タンカーを拿捕した。ベネズエラ産の供給を巡る不透明感が相場上昇に繋がった。株高も原油先物の買いを後押しした。【F】

【１月】
・米国が世界一の石油埋蔵量を誇るベネズエラに対して大規模な攻撃を実施し、同国マドゥロ大統領を拘束。地政学的リスクへの警戒感が高まり一時買いが優勢となった。



【原油価格推移】

($/BBL)	2024FY	1StQrt	2NdQrt	3RdQrt	1月	2月	3月	4thQrt	12/31	1/1	1/2	1/5	1/6	1/7	先週比
		→ 2025FY													
WTI	74.3	63.7	64.9	59.1	57.2			57.2	57.4	NA	57.3	58.3	57.1	56.0	(▲1.4)
BRENT	78.1	66.8	68.1	63.1	60.8			60.8	60.9	NA	60.8	61.8	60.7	60.0	(▲0.9)
OMAN	78.4	66.9	70.1	63.9	59.4			59.4	NA	NA	60.6	58.6	59.7	58.6	–

2.ＬＰＧ（ＣＰ）の動向

1月ＣＰは、Ｐ：＄525／トン、Ｂ：＄520／トン（12月30日通知）
1月CP価格は、先月比でプロパンが＋＄30／トン、ブタン＋＄35／トンで確定（プロパン・ブタンともに前週までの予想から+＄20／トンの値付け）。中東のSPOT供給が月を通してタイトであり、成約水準も高値傾向にあったことから、前月比上昇の値付けとなった。MB相場は、原油相場等への追随や米国内暖冬の見通しにより中旬から下落。その後は低位で推移した。

【ＬＰＧ価格推移（ＣＰ）】

＄／トン

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プロパン	2023FY	555	555	450	400	470	550	600	610	610	620	630	630
	（ＡＬ等価比）	84%	79%	79%	64%	69%	75%	76%	80%	85%	93%	93%	93%
	2024FY	615	580	580	580	590	605	625	635	635	625	635	615
	（ＡＬ等価比）	88%	78%	82%	83%	83%	93%	101%	102%	104%	102%	95%	95%
	2025FY	615	610	600	575	520	520	495	475	495	525		
	（ＡＬ等価比）	98%	104%	113%	99%	88%	89%	82%	86%	91%	102%		
ブタン	2023FY	545	555	440	375	460	560	615	620	620	630	640	640
	（ＡＬ等価比）	84%	80%	70%	60%	68%	77%	79%	82%	88%	96%	96%	96%
	2024FY	620	585	565	565	570	595	620	630	630	615	625	605
	（ＡＬ等価比）	90%	79%	81%	82%	82%	93%	102%	102%	104%	102%	95%	94%
	2025FY	605	590	570	545	490	490	475	460	485	520		
	（ＡＬ等価比）	98%	102%	109%	95%	84%	85%	80%	85%	90%	102%		

【スポット市況】

→ 2025FY

＄／トン

		2024FY	1StQrt	2NdQrt	3RdQrt	1月	2月	3月	4thQrt	12/31	1/1	1/2	1/5	1/6	1/7	先週比
ＣＦＲ日本	P	629	538	529	510	546			546	NA	NA	NA	NA	546	545	－
（RIM Japan Index）	B	622	518	522	546	606			606	NA	NA	NA	NA	606	605	－
※Non-Titled Export Terminal価格：米国エンタープライズ社が運営するテキサス州ヒューストン/モントベルビュー（MB）のLPガス輸出基地での現物取引価格（MB価格）																
米国	P	412	405	357	326	310			310	318	NA	307	307	315	311	(▲7)
（Non-TET※）	B	460	399	391	382	331			331	350	NA	340	333	328	322	(▲28)
※Baltic																
極東ナフサ	$/ﾄﾝ	667	576	588	564	530			530	536	NA	530	523	534	533	(▲4)
タンカー(中東-日本)※	$/ﾄﾝ	58	63	82	68	81			81	NA	NA	81	81	81	83	－

3.ＬＰＧフレート動向

12月のフレート市況は月平均で中東$76/トン（前月対比+$8/トン）、米国$128/トン（前月対比+$3/トン）となった。月間の値動きについては、中東$72～$80/トン、米国$122～$134/トン。月初は中東からの輸出減により船腹需要減退傾向だったが、新パナマ運河の混雑により船腹供給タイトになりフレート上昇。

【参考】CP･MBの動向について

（１）過去2年の振り返り

・2024年中のCPは、プロパンの最高値が＄635/ｔ（11月・12月）、最安値が＄580/ｔ（5月・6月・7月）、ブタンは最高値が＄640/ｔ（2月・3月）、最安値＄565/ｔ（6月・7月）と比較的変動が小幅であった。

・2025年中のCPにおいてはプロパンの最高値が＄635/ｔ（2月）、最安値が＄475/ｔ（11月）で＄160/ｔの差、ブタンは最高値が＄625/ｔ（2月）、最安値が＄460/ｔ（11月）で＄165/ｔの差と変動幅が大きくなった。

→ 最大輸出国の米国と最大輸入国である中国の経済摩擦による影響が大きく、そこで発生した物流と需給の歪みに対応したCPの値付けを中東が行ったことが変動幅増加の主な要因

・一方でMBは2024年と2025年とで変動幅に変化がなく、プロパンが＄500/ｔ～＄300/ｔ、ブタンが＄550/ｔ～＄350/ｔのレンジで推移。米国LPガスの輸出先が中国から東南アジアやインドに一部入れ替わったものの、世界の需要自体は減少していないことから、米国カーゴへの買い気は保たれていたことが原因。

（２）2026年の展望

・米国、中国そして中東の動向がそれぞれの価格を決める最大要素となり、米中の関係が良化へ向かうとするならば（中国による米国玉購入があるとすれば）2025年に発生した価格変動の逆回転の動きが起こると予想される。

→ 米国の極東向け価格（MB）が強含む可能性があるのに対し、CPは比較的落ち着いた動きとなる可能性がある。

・しかしながら、足元では米国によるベネズエラへの攻撃・干渉に対し、（ロシア・）中国が反発しており、関係良化の足掛かりは見えていない（今年4月の米中首脳会談の行方は果たして・・・？？）。

2025年度
第5回業務委員会
資料№8-2

原 料 価 格 推 移 表

年・月	プロパン価格(円) 10㎥ 小売価格	プロパン価格(円) 10kg 卸売価格	CIF価格(速報・プロパン) 対前月比	CIF価格(速報・プロパン) 円／ﾄﾝ	CIF価格(速報・プロパン) 対前月比	為替レート 円／ﾄﾞﾙ	FOB価格(CP・ﾄﾞﾙ/ﾄﾝ) 対前月比	FOB価格(CP・ﾄﾞﾙ/ﾄﾝ) プロパン	FOB価格(CP・ﾄﾞﾙ/ﾄﾝ) 対前月比	FOB価格(CP・ﾄﾞﾙ/ﾄﾝ) ブタン	FOB価格(MB・ﾄﾞﾙ/ﾄﾝ) 対前月比	FOB価格(MB・ﾄﾞﾙ/ﾄﾝ) プロパン	FOB価格(MB・ﾄﾞﾙ/ﾄﾝ) 対CP
2023年1月			−7,032	82,010	−4.74	131.35	−60	590	−45	605	+81	438	−152
(R 5年)2月	8,857	1,634	+7,160	89,170	+2.40	133.75	+200	790	+185	790	−7	431	−359
3月			+4,927	94,097	+1.17	134.92	−70	720	−50	740	−18	413	−307
4月	8,925	1,778	−9,276	84,821	−0.52	134.40	−165	555	−195	545	+8	421	−134
5月			−4,276	80,545	+4.03	138.43	0	555	+10	555	−87	334	−221
6月	8,934	1,500	−3,614	76,931	+3.84	142.27	−105	450	−110	445	−40	294	−156
7月			−7,280	69,651	+0.03	142.30	−50	400	−70	375	+29	323	−77
8月	8,899	1,486	+4,296	73,947	+3.54	145.84	+70	470	+85	460	+28	351	−119
9月			+11,651	85,598	+2.89	148.73	+80	550	+100	560	+33	384	−166
10月	8,932	1,616	+7,827	93,425	+1.87	150.60	+50	600	+55	615	−29	355	−245
11月			+1,747	95,172	+0.35	150.95	+10	610	+5	620	−21	334	−276
12月	9,010	1,644	−1,998	93,174	−5.82	145.13	0	610	0	620	+25	359	−251
2024年1月			−7,475	85,699	+2.52	147.65	+10	620	+10	630	+67	426	−194
(R 6年)2月	8,999	1,660	+7,055	92,754	+2.85	150.50	+10	630	+10	640	+46	472	−158
3月			−57	92,697	+0.17	150.67	0	630	0	640	−56	416	−214
4月	9,057	1,684	+1,838	94,535	+3.84	154.51	−15	615	−20	620	−2	414	−201
5月			+2,278	96,813	+2.74	157.25	−35	580	−35	585	−52	362	−218
6月	9,054	1,648	−2,751	94,062	+1.64	158.89	0	580	−20	565	+33	395	−185
7月			+4,256	98,318	+0.27	159.16	0	580	0	565	+21	416	−164
8月	9,119	1,674	−7,325	90,993	−11.72	147.44	+10	590	+5	570	−26	390	−200
9月			−2,686	88,307	−2.89	144.55	+15	605	+25	595	−50	340	−265
10月	9,105	1,584	+59	88,366	+6.14	150.69	+20	625	+25	620	+66	406	−219
11月			+6,793	95,159	+4.16	154.85	+10	635	+10	630	+13	419	−216
12月	9,145	1,681	−443	94,716	−0.08	154.77	0	635	0	630	−19	400	−235
2025年1月			+875	95,591	+2.77	157.54	−10	625	−15	615	+69	469	−156
(R 7年)2月	9,197	1,747	+2,570	98,161	−4.52	153.02	+10	635	+10	625	+11	480	−155
3月			−2,203	95,958	−2.77	150.25	−20	615	−20	605	−26	454	−161
4月	9,208	1,769	−5,646	90,312	−4.76	145.49	0	615	0	605	−10	444	−171
5月			−7,325	82,987	+0.26	145.75	−5	610	−15	590	−62	382	−228
6月	9,199	1,725	−1,754	81,233	−0.21	145.54	−10	600	−20	570	+8	390	−210
7月			−456	80,777	+2.20	147.74	−25	575	−25	545	−22	368	−207
8月	9,191	1,680	−3,067	77,710	+0.97	148.71	−55	520	−55	490	−21	347	−173
9月			+658	78,368	+0.28	148.99	0	520	0	490	+9	356	−164
10月	9,186	1,677	−1,342	77,026	+3.31	152.30	−25	495	−15	475	−24	332	−163
11月			−2,697	74,329	+3.90	156.20	−20	475	−15	460	−24	308	−167
12月					+0.75	156.95	+20	495	+25	485	+28	336	−159
2026年1月							+30	525	+35	520			
(R8年)2月													
3月													

（注） 1．小売価格は、「経済産業省モニター調査」の全国平均値である。平成15年10月以降は、隔月発表の石油情報センターの資料による。
2．卸売り価格は、(財)日本エネルギー経済研究所石油情報センターの資料による。(H3．9以降隔月調査に変更)
3．「CIF価格」は、財務省貿易統計の速報値である。

2026/1/9

一般社団法人　日本コミュニティーガス協会　業務部

〔CIF価格〕

財務省貿易統計

※基準平均原料価格は平成21年4月以降に認可申請又は届出された地点群に適用される値です。

	CIF速報			CIF確報			基準平均原料価格		上限バンド
	数量(MT)	価格(千円)	CIF価格	数量(MT)	価格(千円)	CIF価格	参照期間	(円/t)	(円/t)
2023年1月	960,205	78,746,588	82,010	960,205	80,081,447	83,400	2022年8月 ～ 2022年10月	97,440	155,900
2023年2月	778,243	69,395,546	89,170	778,243	69,636,631	89,479	2022年9月 ～ 2022年11月	96,380	154,210
2023年3月	1,107,128	104,177,489	94,097	1,107,128	103,429,358	93,421	2022年10月 ～ 2022年12月	92,810	148,500
2023年4月	746,302	63,301,784	84,821	746,302	63,332,984	84,862	2022年11月 ～ 2023年1月	88,150	141,040
2023年5月	627,136	50,512,760	80,545	627,136	50,090,283	79,871	2022年12月 ～ 2023年2月	86,930	139,090
2023年6月	603,380	46,418,888	76,931	603,380	46,469,635	77,016	2023年1月 ～ 2023年3月	89,220	142,750
2023年7月	693,698	48,316,880	69,651	693,698	48,910,343	70,507	2023年2月 ～ 2023年4月	89,820	143,710
2023年8月	671,791	49,676,754	73,947	671,791	49,737,216	74,037	2023年3月 ～ 2023年5月	87,590	140,140
2023年9月	484,732	41,492,027	85,598	484,732	41,945,490	86,533	2023年4月 ～ 2023年6月	80,860	129,380
2023年10月	478,781	44,730,307	93,425	478,781	44,556,293	93,062	2023年5月 ～ 2023年7月	75,290	120,460
2023年11月	760,761	72,403,283	95,172	760,761	71,582,830	94,094	2023年6月 ～ 2023年8月	73,680	117,890
2023年12月	897,964	83,667,137	93,174	897,964	83,667,137	93,174	2023年7月 ～ 2023年9月	75,740	121,180
2024年1月	1,018,868	87,315,751	85,699	1,018,868	86,906,148	85,297	2023年8月 ～ 2023年10月	83,420	133,470
2024年2月	746,103	69,204,342	92,754	746,103	69,241,056	92,804	2023年9月 ～ 2023年11月	92,160	147,460
2024年3月	744,727	69,033,733	92,697	744,727	68,994,993	92,645	2023年10月 ～ 2023年12月	93,480	149,570
2024年4月	802,610	75,874,552	94,535	802,610	75,814,469	94,460	2023年11月 ～ 2024年1月	90,590	144,940
2024年5月	700,345	67,802,427	96,813	700,345	68,101,551	97,240	2023年12月 ～ 2024年2月	90,040	144,060
2024年6月	549,194	51,658,486	94,062	549,194	51,897,467	94,498	2024年1月 ～ 2024年3月	89,720	143,550
2024年7月	631,799	62,117,127	98,318	631,799	61,998,925	98,131	2024年2月 ～ 2024年4月	93,360	149,380
2024年8月	491,715	44,713,167	90,933	491,715	44,696,763	90,900	2024年3月 ～ 2024年5月	94,590	151,340
2024年9月	512,200	45,230,746	88,307	512,200	45,331,337	88,503	2024年4月 ～ 2024年6月	95,300	152,480
2024年10月	639,515	56,511,492	88,366	639,515	56,268,727	87,987	2024年5月 ～ 2024年7月	96,800	154,880
2024年11月	698,778	66,494,854	95,159	698,778	66,224,089	94,771	2024年6月 ～ 2024年8月	94,820	151,710
2024年12月	929,316	88,021,242	94,716	929,316	88,021,242	94,716	2024年7月 ～ 2024年9月	92,880	148,610
2025年1月	945,583	90,388,933	95,591	945,583	90,720,282	95,941	2024年8月 ～ 2024年10月	89,170	142,670
2025年2月	706,829	69,382,851	98,161	706,829	69,259,931	97,987	2024年9月 ～ 2024年11月	90,840	145,340
2025年3月	1,061,119	101,822,718	95,958	1,061,119	101,980,931	96,107	2024年10月 ～ 2024年12月	92,840	148,540
2025年4月	661,110	59,706,472	90,312	661,110	59,216,281	89,571	2024年11月 ～ 2025年1月	95,050	152,080
2025年5月	684,563	56,809,924	82,987	684,563	56,990,725	83,251	2024年12月 ～ 2025年2月	96,110	153,780
2025年6月	646,343	52,504,230	81,233	646,343	52,587,615	81,362	2025年1月 ～ 2025年3月	96,480	154,370
2025年7月	663,416	53,588,654	80,777	663,416	53,385,937	80,471	2025年2月 ～ 2025年4月	95,080	152,130
2025年8月	642,005	49,890,481	77,710	642,005	49,879,303	77,693	2025年3月 ～ 2025年5月	90,580	144,930
2025年9月	543,846	42,620,063	78,368	543,846	42,629,437	78,385	2025年4月 ～ 2025年6月	84,690	135,500
2025年10月	716,459	55,186,007	77,026	716,459	54,998,910	76,765	2025年5月 ～ 2025年7月	81,820	130,910
2025年11月	636,396	47,302,900	74,329				2025年6月 ～ 2025年8月	79,860	127,780
2025年12月							2025年7月 ～ 2025年9月	78,890	126,220
2026年1月							2025年8月 ～ 2025年10月	77,640	124,220
2026年2月							2025年9月 ～ 2025年11月	76,410	122,260
2026年3月							2025年10月 ～ 2025年12月		

2025年度
第5回業務委員会
資料№9

2026/1/15

2025年度　業務部報告

1．　ガス事業法遵守に向けたフォローアップ

1.(1)　ガス事業法における手続等の周知・徹底

1.(1)-1　今年度内に発刊する「Q&A（業務編）」及び昨年度発刊した「申請書・届出書記載例（業務編）」を使用した講習会の実施、事業者からの問い合わせ対応し、合わせて、利用者の意見・感想を収集し改定版の作成を検討する。

- 4月18日「Q&A」校了。30日一部納品。
- 「コミュニティーガス事業がよくわかる業務と保安・技術のQ&A」は4月発刊にずれ込んだが、各支部の講習会には間に合った。講習会での質問、問い合わせ等を参考に改定版発行に備える。
- 6月24日　北陸支部講習会（篠宮）　「Q&A」をテキスト。
- 7月15日　沖縄支部講習会（篠宮）　「Q&A」をテキスト。
- 7月17日　電力･ガス取引監視担当官講習(篠宮)　コミュニティーガス事業について。
- 7月17日　関東支部主任技術者研修（鈴木）　「Q&A」のPR。
- 8月27日　東北支部講習会（鈴木）　「Q&A」をテキスト。
- 10月28, 29日　　中国支部講習会（篠宮）「Q&A」をテキスト。
- 12月12日　四国支部講習会　　「Q&A」をテキスト。
- 2月26日　　九州支部講習会　　「Q&A」をテキスト。

1.(1)-2　ガス事業法令集は常備・携行するには、重厚すぎる書籍になっている。またコミュニティーガス事業に関係しない法令・条文も多い。コミュニティーガス事業に特化した法令集（業務編）を編纂・刊行を検討する。

1.(2)　経過措置料金規制団地への継続的な対応支援

1.(2)-1　令和８年度の標準係数改定に向け、準備資料を収集・作成し、当局との協議に入る。

- 料金制度検討WGの準備として、アンケート調査を実施。

- 9月1日　第９０回料金制度検討WG開催「ベースデータの確認」
- 11月5日　ガス市場整備室と経過措置供給約款料金の「標準係数」の改定の打合せ
- 1月9日　令和７年度 事業報酬率改定のパブコメ終了。１か月後に告示見通し。

1.(2)-2　前準備として、スマートメーターの普及、コンビニ払い等支払い手段の多様化、郵送料の値上げ等、コミュティーガス事業を取り巻く業務内容・諸費用が劇的に変化している。料金制度検討WG開催し、標準係数への反映要否を検討する。

- 2025年2月に開催した第89回料金制度検討WGにおいて、現行の標準係数算定方式を維持することを確認した。8月下旬に予定している第90回同WGに向け、算定資料の収集を行う予定。

２．ＣＮ時代に向けたコミュニティーガスの在り方に関係する情報の収集及び紹介

2-1　グリーンＬＰガス、水素混焼等の脱炭素・低炭素化に関する調査・研究事例及び省エネルギーに資する配送効率化等の取組み事例の収集を継続する。

- 5月27日　東北支部総会懇親会において、ＬＰガスと水素の混焼を旧一般ガスとして進めていると聞く。
- 10月21日　第7回グリーンLPガス推進官民検討会出席
- 12月　2日　ｒDME混合ＬＰガスの実用化検討WG出席

2-2　コミュニティーガス団地における省エネ活動を、地域や事業者のカーボンオフセットに利用する方策があるか調査する。

- 6月30日　ＥＧＥにてＪークレジットについて聴取。
- 9月　8日　デロイトトーマツコンサルティングにＪークレジット等について調査依頼の為の事前打ち合わせ。
- 11月6日　デロイトトーマツコンサルティングとの第2回目の打合せ
- 12月9日　第１回定例打合せ
- 1月19日　堀川産業様ヒアリング
- 1月29日　第２回定例打合せ
- 1月30日　三ツ輪産業様ヒアリング

３．経営基盤の強化

3.(1)　コミュニティーガスの認知度向上

3.(1)-①　<u>需要家に対するコミュニティーガス認知度向上施策継続</u>

「認知度向上ポスター（仮題：グリーンＬＰガスへの様々な取組み）」を企画し、作成・発行する。（「災害に強い」「脱炭素に有効」は既に作成発行済。）

- ポスター第４弾の原案作成。
- 7/14、印刷会社向けコンペ説明会
- 10/1　印刷会社に発注
- 10/10～　随時、各支部経由で発送

3.(1)-②　<u>液石専業事業者に対するガス事業法のコミュニティーガス事業に関する情報提供</u>

Ｑ＆Ａ（業務編）冒頭の【序章】を利用し、液石専業事業者にも理解して頂く方策を検討・実施する。（全Ｌ協と相談。）

✓　5月16日　全Ｌに「Ｑ＆Ａ」手交。液石専業事業者への周知を依頼→全Ｌおよび日液協の保安委員会で紹介するとのこと。

3.(1)-③　<u>住宅建築関係団体との需要開発に資する情報交換継続</u>

日団協あるいはコラボを通じて住宅建築関係団体との交流機会は増加している。これからも自然災害に強く、被災時の避難生活における主要なエネルギーであり、回復も早い、ＬＰガスのコミュニティーガス事業の活用を提案する。

- 7月2～3日開催のコラボ・住宅関連団体合同施設見学会に参加
  参加団体・・・住宅生産団体連合会、プレハブ建築協会、日本木造住宅産業協会、ウィズガスクラブ
- 9月11日　ウィズガスクラブによる大阪・関西万博見学会に参加
  参加団体・・・（一社）全国住宅産業協会、ウィズガスクラブ

3.(2)　コミュニティーガスの需要促進

3.(2)-①　<u>建替・リフォーム時のガス需要確保と機器販売促進等のための情報収集・発信</u>

➢　ＬＰガス業界におけるＣＮトランジション期間の主要テーマは、「省エネ」と「燃転」になっている。ＬＰガス事業者は、ＬＰガス需要の減少を覚悟して、需要家に省エネの必要を説明し、高効率機器の利用を薦めることになる。一方でＣＯ2 排出量の

多い「灯油・A重油」機器からＬＰガス機器への転換を進めることで、CO2 排出量の削減を行うとともに、ＬＰガス需要の維持・向上を図ることとなる。

- 高効率機器としては、エコジョーズ・ハイブリッド給湯器、エネファームが挙げられる。コラボでは日本ガス石油機器工業会と協力して、環境省のデコ活の活用も視野に入れ、主に既設集合住宅におけるエコジョーズ普及のため、ドレン水の雨水処理を認めていない自治体が雨水処理を認めるための活動を行っており、全自治体で雨水処理が認められるよう活動を継続する。

- オーナー・管理会社対象説明会を企画、デコ活に補助金を申請（共同申請）
- 補助金交付のためのヒアリングに参加
- 補助金前期不交付決定、後期の再申請を勧められるも、対象事業は前期でほぼ終了する予定のため申請断念。
- 開口部協会とも協力し、集合住宅オーナー対象の説明・相談会企画（資料別添）
- グリーンＬＰガス推進官民検討会の下に、「高効率機器等普及促進に向けたWG」をはじめとした３つのWGを立ち上げた。
- 12月24日　「ガス石油省エネ給湯機　普及促進会議」の運営管理WGに出席
- 1月28日　　第2回運営管理WG、ＥＪ普及促進WG予定

- また燃転活動では、コミュニティーガスの場合、家庭用需要が大部分を占めるため、ファンヒーター等の灯油機器をＬＰガス機器に置き換える、下取りセール等が有効と思われ、これに資する方策を検討する。

（全Ｌで既に対応済みと思われるが、要確認。）

- ✓ 全Ｌに確認したところ、各都道府県協会に任せているとのこと。

3.(2)-②　会員事業者による顧客接点強化活動の推進支援

- 既に作成済みのパンフレット等は支部の要請に応じ増刷する。

3.(2)-③　新たな普及促進につながる情報提供

Q 1. 資源エネルギー庁の制度設計専門会合、ガス事業制度検討WG、あるいは日団協・コラボの諸会議等で入手した情報で、会員事業者に資すると思われるものについては、協会ＨＰや業務委員会を通じて提供する。

Q 31.　12/12　TEL　中国　会員

1. **自由化団地にて近年、賃貸契約の需要家にて無断で転居されることが多くガス料金を回収されないことを懸念されております、その対策でガス使用開始時(事前)に補償費を徴収することを検討されています。こちらの運用は、支障ないでしょうか。**

2. **ガス料金の請求をペーパーでの郵送 70%、Web 送信 30%の運用をされています。ペーパーでの郵送の需要家には、郵送費等を盛り込んだ発行手数料の追加徴収を検討されております。こちらの運用は、支障ないでしょうか。**

いずれも、公平性を保つために供給約款に追記をして需要家全件周知をすれば、運用上は使用ないという認識をもっておりますが、いかがでしょうか。

✓ １については、モデル約款にも保証金の記載がありますので、三和商会様の約款にも記載しているのではと思います。記載が無ければ変更が必要（自由化団地は届出不要）です。モデル約款では、保証金に対し年〇〇%の利息を付けるとありますが、「当社は、保証金について利息は付しません。」とした方が良いです。
２については、その他費用に該当する（規則13条1項9号）ところですので、需要家全件周知をすれば問題ございません。

✓ 「Q＆A集」に記載がある内容なので購入を進める。

Q 32.　12/24　TEL･HP　本部(四国）会員

旧法時代に認可を受けた2団地の間に、旧法時代から液石の小規模導管供給(17戸)があるが1の団地にならないか？　なお、進化を受けた2つの団地は、戸建て供給と集合住宅となっている。

✓ ①旧法時に認可を受けた団地は別に考える。
②集合住宅と戸建て住宅は別に考える。
既に認可を受けている戸建て団地と供給設備は隣接しているものの、供給先の住所（字）が異なること。集合住宅とは別に考えることから、液石の小規模導管供給の団地は一の団地に含まれない。

✓ 「Q＆A集」に記載がある内容なので購入を進める。

Q 33.　1/9　関東　会員

資金が無く経年管の入れ替えが出来ない場合、コミュニティーガスをやめて液石にすることは可能か。

✓ その理由だけで液石への移行はできないと思われる。メーター取付数や調定数が70を割って、増加する見込みが無い場合は液石にすることが認められやすい。
経年管の入れ替えも、複数年にわたって実施することとし、その間に料金を見直し（値上げ）を行うこともできるのではないか。それでも厳しい場合は譲渡も考えなければならない。

以上

2025年度
第5回業務委員会
資料(参考)№10-1

2025年10月分コミュニティーガス事業　生産動態統計の概況

2026/1/5

出典:ガス市場整備課　簡易ガス事業生産動態統計の概況

	地点群数				許可地点数（件）				メーター取付数（個）				調定数（件）				（内家庭用調定数）（件）			
	当月末	前年同月末	増減	前年比(%)	当月末	前年同月末	増減	前年比(%)	当月末	前年同月末	増減	前年比(%)	当月末	前年同月末	増減	前年比(%)	当月末	前年同月末	増減	前年比(%)
北海道	346	343	3	0.9%	141,456	141,217	239	0.2%	97,663	97,624	39	0.0%	79,207	79,978	▲ 771	▲1.0%	77,975	78,732	▲ 757	▲1.0%
東北	591	593	▲ 2	▲0.3%	151,370	152,035	▲ 665	▲0.4%	113,208	113,616	▲ 408	▲0.4%	89,671	90,616	▲ 945	▲1.0%	88,484	89,420	▲ 936	▲1.0%
関東	2,015	2,024	▲ 9	▲0.4%	517,655	519,450	▲ 1,795	▲0.3%	371,333	373,507	▲ 2,174	▲0.6%	312,937	315,432	▲ 2,495	▲0.8%	309,858	312,345	▲ 2,487	▲0.8%
中部	657	656	1	0.2%	176,554	176,664	▲ 110	▲0.1%	127,229	127,917	▲ 688	▲0.5%	107,275	107,790	▲ 515	▲0.5%	106,515	107,036	▲ 521	▲0.5%
北陸	269	270	▲ 1	▲0.4%	57,902	58,126	▲ 224	▲0.4%	36,662	37,176	▲ 514	▲1.4%	28,131	28,369	▲ 238	▲0.8%	27,866	28,125	▲ 259	▲0.9%
近畿	954	969	▲ 15	▲1.5%	202,077	207,425	▲ 5,348	▲2.6%	152,510	153,856	▲ 1,346	▲0.9%	115,609	117,499	▲ 1,890	▲1.6%	114,899	116,746	▲ 1,847	▲1.6%
中国	589	590	▲ 1	▲0.2%	134,841	134,846	▲ 5	▲0.0%	91,837	92,071	▲ 234	▲0.3%	72,646	73,120	▲ 474	▲0.6%	72,225	72,695	▲ 470	▲0.6%
四国	357	357	0	0.0%	72,729	72,844	▲ 115	▲0.2%	57,109	57,012	97	0.2%	41,615	41,974	▲ 359	▲0.9%	41,529	41,884	▲ 355	▲0.8%
九州	1,195	1,185	10	0.8%	304,795	303,719	1,076	0.4%	228,253	228,202	51	0.0%	186,853	187,782	▲ 929	▲0.5%	185,846	186,749	▲ 903	▲0.5%
沖縄	220	216	4	1.9%	36,674	35,867	807	2.2%	35,962	35,391	571	1.6%	31,923	31,506	417	1.3%	31,900	31,482	418	1.3%
全国	7,193	7,203	▲ 10	▲0.1%	1,796,053	1,802,193	▲ 6,140	▲0.3%	1,311,766	1,316,372	▲ 4,606	▲0.3%	1,065,867	1,074,066	▲ 8,199	▲0.8%	1,057,097	1,065,214	▲ 8,117	▲0.8%

※新規地点群　地点群…　地点

（100.4652MJ=24,000kcal換算）

	販売量（㎥）												家庭用単位消費量（㎥/戸）			
	当月			前年同月			前年同月比									
	家庭用	商業用他	合計	家庭用	商業用他	合計	家庭用	%	商業用他	%	合計	%	当月	前年同月	増減	前年比(%)
北海道	312,667	56,311	368,978	312,906	53,993	366,899	▲ 239	▲0.1%	2,318	4.3%	2,079	0.6%	4.0	4.0	0.0	0.0%
東北	484,662	105,440	590,102	504,881	101,457	606,338	▲ 20,219	▲4.0%	3,983	3.9%	▲ 16,236	▲2.7%	5.5	5.6	▲ 0.1	▲1.8%
関東	1,641,809	232,562	1,874,371	1,700,480	229,168	1,929,648	▲ 58,671	▲3.5%	3,394	1.5%	▲ 55,277	▲2.9%	5.3	5.4	▲ 0.1	▲1.9%
中部	581,398	48,062	629,460	573,763	45,344	619,107	7,635	1.3%	2,718	6.0%	10,353	1.7%	5.5	5.4	0.1	1.9%
北陸	113,523	22,602	136,125	115,478	23,512	138,990	▲ 1,955	▲1.7%	▲ 910	▲3.9%	▲ 2,865	▲2.1%	4.1	4.1	0.0	0.0%
近畿	503,900	40,363	544,263	513,236	41,754	554,990	▲ 9,336	▲1.8%	▲ 1,391	▲3.3%	▲ 10,727	▲1.9%	4.4	4.4	0.0	0.0%
中国	335,096	21,102	356,198	323,635	23,947	347,582	11,461	3.5%	▲ 2,845	▲11.9%	8,616	2.5%	4.6	4.5	0.1	2.2%
四国	179,802	5,174	184,976	182,613	5,117	187,730	▲ 2,811	▲1.5%	57	1.1%	▲ 2,754	▲1.5%	4.3	4.4	▲ 0.1	▲2.3%
九州	788,482	76,969	865,451	797,119	84,686	881,805	▲ 8,637	▲1.1%	▲ 7,717	▲9.1%	▲ 16,354	▲1.9%	4.2	4.3	▲ 0.1	▲2.3%
沖縄	113,656	1,507	115,163	120,386	1,514	121,900	▲ 6,730	▲5.6%	▲ 7	▲0.5%	▲ 6,737	▲5.5%	3.6	3.8	▲ 0.2	▲5.3%
全国	5,054,995	610,092	5,665,087	5,144,497	610,492	5,754,989	▲ 89,502	▲1.7%	▲ 400	▲0.1%	▲ 89,902	▲1.6%	4.8	4.8	0.0	0.0%

当月平均気温		
出典:気象庁		前年比
札幌	11.9℃	▲1.9℃
仙台	16.2℃	▲1.8℃
東京	18.5℃	▲2.1℃
名古屋	20.1℃	▲1.5℃
富山	18.3℃	▲1.0℃
大阪	21.1℃	▲1.0℃
広島	21.0℃	▲0.3℃
高松	21.5℃	▲0.1℃
福岡	22.4℃	0.4℃
那覇	28.0℃	0.4℃
全国	19.9℃	−0.9℃

参考　2025年10月の一般ガス事業のお客様件数・ガス販売量実績

		当月	前年同月	増減	前年比(%)
お客さま件数（千戸）	家庭用	27,238	27,103	135	0.5%
	商業用他	1,188	1,187	2	0.1%
	計	28,427	28,289	137	0.5%

出典:経産省iP

		当月	前年同月	増減	前年比(%)
ガス販売量（千㎥）	家庭用	408,484	406,081	2,403	0.6%
	商業用他	2,357,798	2,279,673	78,126	3.4%
	計	2,766,282	2,685,754	80,528	3.0%

（41.8605MJ=1万kcal換算）

2025年10月分コミュニティーガス事業　生産動態統計の概況

2024年度累計（4月-10月） コミュニティーガス事業生産動態統計の概況

出典：ガス市場整備課　簡易ガス事業生産動態統計の概況

	地点群数				許可地点数（件）				メーター取付数（個）				調定数（件）				（内家庭用調定数）（件）			
	2025年度累計（4月-10月）	前年同期	増減	前年比（%）	2025年度累計（4月-10月）	前年同期	増減	前年比（%）	2025年度累計（4月-10月）	前年同期	増減	前年比（%）	2025年度累計（4月-10月）	前年同期	増減	前年比（%）	2025年度累計（4月-10月）	前年同期	増減	前年比（%）
北海道	2,421	2,401	20	0.8%	990,078	988,695	1,383	0.1%	684,020	684,732	▲ 712	▲0.1%	556,099	561,824	▲ 5,725	▲1.0%	547,399	553,030	▲ 5,631	▲ 1.0%
東北	4,138	4,160	▲ 22	▲0.5%	1,059,649	1,064,742	▲ 5,093	▲0.5%	793,602	795,737	▲ 2,135	▲0.3%	629,137	636,330	▲ 7,193	▲1.1%	620,816	627,916	▲ 7,100	▲ 1.1%
関東	14,117	14,182	▲ 65	▲0.5%	3,627,113	3,636,824	▲ 9,711	▲0.3%	2,604,611	2,616,438	▲ 11,827	▲0.5%	2,194,922	2,213,381	▲ 18,459	▲0.8%	2,173,190	2,191,611	▲ 18,421	▲ 0.8%
中部	4,599	4,597	2	0.0%	1,235,851	1,237,483	▲ 1,632	▲0.1%	891,774	896,790	▲ 5,016	▲0.6%	751,826	755,972	▲ 4,146	▲0.5%	746,513	750,676	▲ 4,163	▲ 0.6%
北陸	1,883	1,890	▲ 7	▲0.4%	405,314	406,956	▲ 1,642	▲0.4%	258,024	260,754	▲ 2,730	▲1.0%	197,386	199,018	▲ 1,632	▲0.8%	195,669	197,315	▲ 1,646	▲ 0.8%
近畿	6,736	6,834	▲ 98	▲1.4%	1,423,793	1,467,673	▲ 43,880	▲3.0%	1,071,057	1,080,234	▲ 9,177	▲0.8%	813,606	827,506	▲ 13,900	▲1.7%	808,458	822,272	▲ 13,814	▲ 1.7%
中国	4,123	4,139	▲ 16	▲0.4%	943,983	945,608	▲ 1,625	▲0.2%	643,871	646,106	▲ 2,235	▲0.3%	510,003	514,035	▲ 4,032	▲0.8%	507,057	511,041	▲ 3,984	▲ 0.8%
四国	2,494	2,486	8	0.3%	508,607	508,283	324	0.1%	399,510	398,599	911	0.2%	292,122	294,190	▲ 2,068	▲0.7%	291,509	293,555	▲ 2,046	▲ 0.7%
九州	8,357	8,293	64	0.8%	2,130,690	2,125,687	5,003	0.2%	1,599,387	1,598,065	1,322	0.1%	1,310,755	1,318,009	▲ 7,254	▲0.6%	1,303,640	1,310,764	▲ 7,124	▲ 0.5%
沖縄	1,523	1,516	7	0.5%	254,761	252,025	2,736	1.1%	249,858	248,711	1,147	0.5%	222,421	219,621	2,800	1.3%	222,255	219,453	2,802	1.3%
全国	50,391	50,498	▲ 107	▲0.2%	12,579,839	12,633,976	▲ 54,137	▲0.4%	9,195,714	9,226,166	▲ 30,452	▲0.3%	7,478,277	7,539,886	▲ 61,609	▲0.8%	7,416,506	7,477,633	▲ 61,127	▲ 0.8%

※新規地点群　累計　　地点群…地点

（100.4652MJ=24,000kcal換算）

（100.4652MJ=24,000kcal換算）

	販売量（㎥）												家庭用単位消費量（㎥/戸）			
	2025年度累計(4月-10月)			前年同期			前年比									
	家庭用	商業用他	合計	家庭用	商業用他	合計	家庭用	%	商業用他	%	合計	%	2025年度累計（4月-10月）	前年同期	増減	前年比（%）
北海道	2,880,962	574,537	3,455,499	2,834,013	528,289	3,362,302	46,949	1.7%	46,248	8.8%	93,197	2.8%	5.3	5.1	0.2	3.9%
東北	4,282,404	891,262	5,173,666	4,360,993	858,755	5,219,748	▲ 78,589	▲1.8%	32,507	3.8%	▲ 46,082	▲0.9%	6.9	6.9	0.0	0.0%
関東	16,132,235	1,829,858	17,962,093	16,579,892	1,773,950	18,353,842	▲ 447,657	▲2.7%	55,908	3.2%	▲ 391,749	▲2.1%	7.4	7.6	▲ 0.2	▲2.6%
中部	5,426,724	348,570	5,775,294	5,626,710	353,623	5,980,333	▲ 199,986	▲3.6%	▲ 5,053	▲1.4%	▲ 205,039	▲3.4%	7.3	7.5	▲ 0.2	▲2.7%
北陸	1,115,506	179,346	1,294,852	1,130,161	181,525	1,311,686	▲ 14,655	▲1.3%	▲ 2,179	▲1.2%	▲ 16,834	▲1.3%	5.7	5.7	0.0	0.0%
近畿	5,463,361	317,296	5,780,657	5,667,480	326,872	5,994,352	▲ 204,119	▲3.6%	▲ 9,576	▲2.9%	▲ 213,695	▲3.6%	6.8	6.9	▲ 0.1	▲1.4%
中国	3,273,900	182,079	3,455,979	3,334,510	180,966	3,515,476	▲ 60,610	▲1.8%	1,113	0.6%	▲ 59,497	▲1.7%	6.5	6.5	0.0	0.0%
四国	1,733,721	40,410	1,774,131	1,781,100	39,465	1,820,565	▲ 47,379	▲2.7%	945	2.4%	▲ 46,434	▲2.6%	5.9	6.1	▲ 0.2	▲3.3%
九州	7,918,014	513,954	8,431,968	7,919,959	531,999	8,451,958	▲ 1,945	▲0.0%	▲ 18,045	▲3.4%	▲ 19,990	▲0.2%	6.1	6.0	0.1	1.7%
沖縄	1,088,632	10,253	1,098,885	1,013,808	10,531	1,024,339	74,824	7.4%	▲ 278	▲2.6%	74,546	7.3%	4.9	4.6	0.3	6.5%
全国	49,315,459	4,887,565	54,203,024	50,248,626	4,785,975	55,034,601	▲ 933,167	▲1.9%	101,590	2.1%	▲ 831,577	▲1.5%	6.6	6.7	▲ 0.1	▲1.5%

2025年度累計(4月-10月) 平均気温		
出典：気象庁		前年比
札幌	18.2℃	0.3℃
仙台	20.8℃	▲0.5℃
東京	23.2℃	▲0.4℃
名古屋	24.0℃	▲0.3℃
富山	22.3℃	▲0.1℃
大阪	24.5℃	▲0.0℃
広島	23.9℃	▲0.4℃
高松	24.4℃	0.0℃
福岡	24.4℃	▲0.3℃
那覇	27.1℃	▲0.4℃
全国	23.3℃	▲ 0.2

参考　2025年度(4月-10月)累計　一般ガス事業のガス販売量実績

出典：経産省iP

		当年4月－10月	前年同期	増減	前年比（%）
お客さま件数（千戸）	家庭用	190,882	189,466	1,416	0.7%
	商業用他	8,344	8,331	14	0.2%
	計	199,227	197,797	1,430	0.7%

		当年4月－10月	前年同期	増減	前年比（%）
ガス販売量（千㎥）	家庭用	3,732,881	3,750,869	▲ 17,988	▲ 0.5%
	商業用他	16,467,253	16,397,405	69,848	0.4%
	計	20,200,134	20,148,273	51,861	0.3%

（41.8605MJ=1万kcal換算）

2025年累計（1月-10月） コミュニティーガス事業生産動態統計の概況

出典：ガス市場整備課　簡易ガス事業生産動態統計の概況

	地点群数				許可地点数（件）				メーター取付数（個）				調定数（件）				（内家庭用調定数）（件）			
	2025年累計(1月-10	前年同期	増減	前年比（%）	2025年累計(1月-10	前年同期	増減	2025年累計（1月-10月）	2025年累計（1月-10月）	前年同期	増減	2025年累計(1月-10	2025年累計（1月-10月）	前年同期	増減	2025年累計（1月-10月）	2025年累計（1月-10月）	前年同期	増減	2025年累計（1月-10月）
北海道	3,455	3,429	26	0.8%	1,414,094	1,412,484	1,610	0.1%	977,202	979,057	▲ 1,855	▲0.2%	795,293	804,061	▲ 8,768	▲1.1%	782,802	791,379	▲ 8,577	▲ 1.1%
東北	5,914	5,940	▲ 26	▲0.4%	1,514,358	1,520,624	▲ 6,266	▲0.4%	1,134,219	1,135,996	▲ 1,777	▲0.2%	899,515	909,379	▲ 9,864	▲1.1%	887,621	897,218	▲ 9,597	▲ 1.1%
関東	20,164	20,258	▲ 94	▲0.5%	5,181,710	5,194,067	▲ 12,357	▲0.2%	3,722,469	3,736,651	▲ 14,182	▲0.4%	3,138,800	3,164,609	▲ 25,809	▲0.8%	3,107,716	3,133,430	▲ 25,714	▲ 0.8%
中部	6,567	6,560	7	0.1%	1,765,292	1,767,033	▲ 1,741	▲0.1%	1,274,185	1,280,674	▲ 6,489	▲0.5%	1,074,785	1,080,510	▲ 5,725	▲0.5%	1,067,224	1,072,910	▲ 5,686	▲ 0.5%
北陸	2,693	2,700	▲ 7	▲0.3%	579,404	581,392	▲ 1,988	▲0.3%	369,160	372,984	▲ 3,824	▲1.0%	282,098	283,959	▲ 1,861	▲0.7%	279,682	281,521	▲ 1,839	▲ 0.7%
近畿	9,639	9,782	▲ 143	▲1.5%	2,040,178	2,095,982	▲ 55,804	▲2.7%	1,531,732	1,538,751	▲ 7,019	▲0.5%	1,164,563	1,180,018	▲ 15,455	▲1.3%	1,157,174	1,172,482	▲ 15,308	▲ 1.3%
中国	5,886	5,914	▲ 28	▲0.5%	1,347,707	1,351,389	▲ 3,682	▲0.3%	919,285	923,444	▲ 4,159	▲0.5%	728,514	735,741	▲ 7,227	▲1.0%	724,293	731,453	▲ 7,160	▲ 1.0%
四国	3,563	3,542	21	0.6%	726,815	725,100	1,715	0.2%	570,495	568,794	1,701	0.3%	417,794	420,470	▲ 2,676	▲0.6%	416,914	419,560	▲ 2,646	▲ 0.6%
九州	11,918	11,816	102	0.9%	3,042,077	3,031,816	10,261	0.3%	2,284,476	2,278,893	5,583	0.2%	1,873,512	1,882,536	▲ 9,024	▲0.5%	1,863,285	1,872,132	▲ 8,847	▲ 0.5%
沖縄	2,175	2,159	16	0.7%	363,417	359,507	3,910	1.1%	356,445	354,774	1,671	0.5%	317,491	313,424	4,067	1.3%	317,253	313,184	4,069	1.3%
全国	71,974	72,100	▲ 126	▲0.2%	17,975,052	18,039,394	▲ 64,342	▲0.4%	13,139,668	13,170,018	▲ 30,350	▲0.2%	10,692,365	10,774,707	▲ 82,342	▲0.8%	10,603,964	10,685,269	▲ 81,305	▲ 0.8%

※新規地点群　累計　　地点群…地点

（100.4652MJ=24,000kcal換算）

	販売量（㎥）												家庭用単位消費量（㎥/戸）			
	2025年累計（1月-10月）			前年同月累計			前年比									
	家庭用	商業用他	合計	家庭用	商業用他	合計	家庭用	%	商業用他	%	合計	%	2025年累計（1月-10月）	前年同月累計	増減	前年比（%）
北海道	5,876,402	1,218,901	7,095,303	6,011,606	1,154,541	7,166,147	▲ 135,204	▲2.2%	64,360	5.6%	▲ 70,844	▲1.0%	7.4	7.5	▲ 0.1	▲1.3%
東北	7,431,172	1,505,462	8,936,634	7,554,835	1,446,552	9,001,387	▲ 123,663	▲1.6%	58,910	4.1%	▲ 64,753	▲0.7%	8.3	8.3	0.0	0.0%
関東	30,019,409	3,313,433	33,332,842	30,551,578	3,142,344	33,693,922	▲ 532,169	▲1.7%	171,089	5.4%	▲ 361,080	▲1.1%	9.6	9.7	▲ 0.1	▲1.0%
中部	10,452,595	578,267	11,030,862	10,633,316	583,172	11,216,488	▲ 180,721	▲1.7%	▲ 4,905	▲0.8%	▲ 185,626	▲1.7%	9.7	9.8	▲ 0.1	▲1.0%
北陸	2,019,167	280,221	2,299,388	2,022,159	283,078	2,305,237	▲ 2,992	▲0.1%	▲ 2,857	▲1.0%	▲ 5,849	▲0.3%	7.2	7.1	0.1	1.4%
近畿	10,248,485	508,635	10,757,120	10,412,031	525,330	10,937,361	▲ 163,546	▲1.6%	▲ 16,695	▲3.2%	▲ 180,241	▲1.6%	8.8	8.8	0.0	0.0%
中国	6,316,566	322,270	6,638,836	6,356,545	314,804	6,671,349	▲ 39,979	▲0.6%	7,466	2.4%	▲ 32,513	▲0.5%	8.7	8.6	0.1	1.2%
四国	3,192,066	59,244	3,251,310	3,230,953	57,388	3,288,341	▲ 38,887	▲1.2%	1,856	3.2%	▲ 37,031	▲1.1%	7.6	7.7	▲ 0.1	▲1.3%
九州	14,781,735	775,959	15,557,694	14,669,102	776,578	15,445,680	112,633	0.8%	▲ 619	▲0.1%	112,014	0.7%	7.9	7.8	0.1	1.3%
沖縄	1,849,368	13,605	1,862,973	1,721,768	14,242	1,736,010	127,600	7.4%	▲ 637	▲4.5%	126,963	7.3%	5.8	5.5	0.3	5.5%
全国	92,186,965	8,575,997	100,762,962	93,163,893	8,298,029	101,461,922	▲ 976,928	▲1.0%	277,968	3.3%	▲ 698,960	▲0.7%	8.6	8.6	0.0	0.0%

2025年累計（1月-10月）平均気温		
	出典：気象庁	前年比
札幌	12.7℃	0.5℃
仙台	15.9℃	▲0.5℃
東京	18.6℃	▲0.4℃
名古屋	18.9℃	▲0.5℃
富山	17.1℃	▲0.3℃
大阪	19.5℃	▲0.2℃
広島	18.8℃	▲0.7℃
高松	19.2℃	▲0.3℃
福岡	19.6℃	▲0.7℃
那覇	24.2℃	▲0.8℃
全国	18.4℃	▲0.4℃

参考　2025年(1月－10月)累計　一般ガス事業のガス販売量実績

出典：経産省iP

		当年1月－10月	前年同期	増　減	前年比（%）
お客さま件数（千戸）	家庭用	272,327	270,241	2,086	0.8%
	商業用他	11,937	11,931	6	0.0%
	計	284,264	282,172	2,092	0.7%

		当年1月－10月	前年同期	増減	前年比（%）
ガス販売量（千㎥）	家庭用	7,086,388	7,401,726	▲ 315,338	▲ 4.3%
	商業用他	23,804,949	24,267,721	▲ 462,772	▲ 1.9%
	計	30,891,337	31,669,447	▲ 778,110	▲ 2.5%

（41.8605MJ=1万kcal換算）

2025年度
第5回業務委員会
資料№10-2

ガス事業生産動態統計の概況
（ガス小売事業（特定ガス発生設備においてガスを発生させ、導管によりこれを供給するものに限る。））

（令和7年10月分）

資源エネルギー庁
電力・ガス事業部
ガス市場整備室

令和7年10月分のガス小売事業（特定ガス発生設備においてガスを発生させ、導管によりこれを供給するものに限る。）の総生産量（販売量）は、対前年同月比98.4%、調定数は、対前年同月比99.2%、平均販売量は、対前年同月比99.2%だった。

（１）供給地点群数等

供給地点群数及び供給地点数は、それぞれ7,193（対前月より4地点群減少、対前年同月比99.9%）、1,796,053（対前月より314地点減少、対前年同月比99.7%）となった。

（２）需要家メーター取付数等

需要家メーター取付数は、1,311,766個（対前年同月比99.7%）で対前月988個の減少（対前月比99.9%）、調定数は、1,065,867件（対前年同月比99.2%）で対前月694件の減少（対前月比99.9%）、そのうち家庭用需要家メーター取付数は、1,300,064個、調定数は、1,057,097件である。

（３）総生産量（販売量）

総生産量（販売量）は、5,665,087㎥で、そのうち家庭用は、5,054,995㎥（構成比89.2%）となっている。

平均販売量

時間軸コード	年月	経済産業局名	生産量（販売量） 対前年同月比	生産量（販売量） 対前年同月比	平均販売量	平均販売量	平均販売量
			家庭用	総販売量	2024年10月	2025年10月	対前年同月比
			%	%	㎥／月	㎥／月	%
2025001010	202510	北海道局	99.92	100.57	4.59	4.66	101.55
2025001010	202510	東北局	96	97.32	6.69	6.58	98.35
2025001010	202510	関東局	96.54	97.13	6.12	5.99	97.86
2025001010	202510	中部局	101.35	101.69	5.74	5.87	102.18
2025001010	202510	北陸支局	98.31	97.94	4.9	4.84	98.77
2025001010	202510	近畿局	98.18	98.07	4.72	4.71	99.67
2025001010	202510	中国局	103.54	102.48	4.75	4.9	103.15
2025001010	202510	四国局	98.46	98.53	4.47	4.44	99.38
2025001010	202510	九州局	98.9	98.13	4.69	4.63	98.67
2025001010	202510	沖縄局	94.41	94.47	3.87	3.61	93.24
2025001010	202510	全　国	98.26	98.44	5.36	5.32	99.19

ガス事業生産動態統計集計表（令和7年10月分） 総括表

項目1	項目2	項目3	単位	北海道局	東北局	関東局	中部局	北陸支局	近畿局	中国局	四国局	九州局	沖縄局	い号合計	ろ号合計	合　計
供給地点群数			個	346	591	2,015	657	269	954	589	357	1,195	220			7193
	(うち圧縮天然ガス)		個	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0			22
供給地点数			個	141,456	151,370	517,655	176,554	57,902	202,077	134,841	72,729	304,795	36,674			1796053
	(うち圧縮天然ガス)		個	0	0	4,128	0	0	0	0	0	0	0			4128
原料	月始在庫量		kg	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	7085150	9902	7095052
	(うち圧縮天然ガス)		m^3	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			0
	受入量		kg	1,121,516	1,408,783	4,450,263	1,613,271	373,872	1,447,082	878,217	464,782	2,225,597	263,605	14227271	19717	14246988
	(うち圧縮天然ガス)		m^3	0	0	34,258	0	0	0	0	0	0	0			34258
	消費量		kg	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	5492076	19571	5511647
	(うち圧縮天然ガス)		m^3	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			0
	過欠補正		kg	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	−280550	−28	−280578
	(うち圧縮天然ガス)		m^3	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			0
	月末在庫量		kg	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	7308905	10020	7318925
	(うち圧縮天然ガス)		m^3	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			0
需要家メーター数	家庭用取付数	取付数	個	95,674	111,633	367,382	126,286	36,268	151,561	91,317	56,953	227,063	35,927			1300064
		(うち圧縮天然ガス)	個	0	0	3,572	0	0	0	0	0	0	0			3572
		調定数	個	77,975	88,484	309,858	106,515	27,866	114,899	72,225	41,529	185,846	31,900			1057097
		(うち圧縮天然ガス)	個	0	0	3,055	0	0	0	0	0	0	0			3055
	商業用	取付数	個	1,511	1,262	3,549	745	315	712	263	133	650	20			9160
		(うち圧縮天然ガス)	個	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0			16
		調定数	個	847	921	2,743	612	201	532	210	69	566	13			6714
		(うち圧縮天然ガス)	個	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0			15
	その他	取付数	個	478	313	402	198	79	237	257	23	540	15			2542
		(うち圧縮天然ガス)	個	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
		調定数	個	385	266	336	148	64	178	211	17	441	10			2056
		(うち圧縮天然ガス)	個	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	計	取付数	個	97,663	113,208	371,333	127,229	36,662	152,510	91,837	57,109	228,253	35,962			1311766
		(うち圧縮天然ガス)	個	0	0	3,588	0	0	0	0	0	0	0			3588
		調定数	個	79,207	89,671	312,937	107,275	28,131	115,609	72,646	41,615	186,853	31,923			1065867
		(うち圧縮天然ガス)	個	0	0	3,070	0	0	0	0	0	0	0			3070
生産量 (販売量)	家庭用		m^3	312,667	484,662	1,641,809	581,398	113,523	503,900	335,096	179,802	788,482	113,656			5054995
	(うち圧縮天然ガス)		m^3	0	0	33,152	0	0	0	0	0	0	0			33152
	商業用		m^3	30,572	71,237	181,820	39,126	10,236	22,063	8,212	2,003	24,838	973			391080
	(うち圧縮天然ガス)		m^3	0	0	982	0	0	0	0	0	0	0			982
	その他		m^3	25,739	34,203	50,742	8,936	12,366	18,300	12,890	3,171	52,131	534			219012
	(うち圧縮天然ガス)		m^3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	計		m^3	368,978	590,102	1,874,371	629,460	136,125	544,263	356,198	184,976	865,451	115,163			5665087
	(うち圧縮天然)		m^3	0	0	34,134	0	0	0	0	0	0	0			34134